

資料 3

目標達成のための具体的な取組みの進捗状況

説 明		22年度計画	22年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
医師確保対策	医師修学資金貸与医学生の確保、定着促進	医師修学資金の新たな貸与医学生を確保する。 【募集人員】各学年3名程度	新たに2名の医学生に貸与を開始し、6学年全体で18名の医学生を確保した。 ※貸与医学生の状況 6年生 2名 5年生 2名 4年生 2名 3年生 7名 2年生 3名 1年生 2名 合計 18名	○		
		医師修学資金貸与医学生のうち卒業見込者3名を研修医として豊岡病院で受入れる。	3名全員を研修医として豊岡病院に受入れた。 ※研修医等の状況 専攻医 1名 研修医(2年目) 1名 研修医(1年目) 3名 合計 5名			
	医師のキャリアアップ支援	医師の豊岡病院組合への定着を図るため、医師のキャリアアップへの支援を行う。	医師の学会専門医、認定医取得にかかる経費を助成し、継続して支援する。	平成22年度17件 (平成21年度は18件)	△	
		医師が所属する学会の年会費を助成し、継続して支援する。 (医師1人につき1学会)	平成22年度44件 (平成21年度は47件) さらに周知が必要な状況である。			
医師の業務軽減	医師の労働環境を改善し、豊岡病院組合への定着を図る。	医師事務作業補助者を増員して配置する。	4月に7名から17名に増員し、翌5月に医師事務作業補助加算2.5対1を取得した。 [豊岡病院の救急当直の専任化] 救急医の増員(4名→9名)により救急当直を専任化し、各診療科の医師の負担を軽減した。	○		
業績に対する評価・報奨	業績(診療成績等の類似病院比較、改革プラン比較、過去3年間の平均との比較の11項目のポイント制)を病院毎に評価し、医療備品の購入に使える予算(総額1,300万円程度)を配分し、意欲を高める。	業績評価に伴う報奨制度を継続して実施する。	業績評価報奨制度を継続して実施したほか、新たに管理者表彰も実施した。 [管理者表彰] 職員の職務上又は私的活動面における功績を評価して職員の士気の高揚等を図ることを目的とした制度。	○		

説明		22年度計画	22年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
収入 向上 対策	DPCの効率的運用	DPCとは、「診断群分類包括評価」の略で、病気の種類（診断群分類）によって医療費が決まる定額支払い制度（従来は出来高払制）、豊岡病院で実施。	豊岡病院で平成20年7月に導入したDPC入院算定を継続して行う。	DPCによる入院算定を継続 出来高払いと比較した場合の収入増：285百万円	○	
	新たな施設基準の取得	診療報酬上有利となる施設基準を取得し、収益の向上を図る。	新たな施設基準を取得し、収益の確保に努める。	各病院で新たな施設基準の取得に努めた。 [新規に取得した主な施設基準] ・精神科作業療法等（豊） ・医療安全対策加算2（日・和） ・看護必要度加算（出） ・医薬品安全性情報等管理体制加算（豊・日・梁・和）等 ※効果額：12百万円	○	
	組合外加算の見直し	豊岡市及び朝来市から条例に基づいた経費負担を受けていることから、構成市以外の患者から加算金を徴収することにより、負担の公平化を図る。	平成20年12月に改正した加算料金を継続して徴収する。 [加算料金] ・非紹介患者加算3割加算 ・時間外加算3割加算 ・室料差額加算3割加算 ・分娩介助料加算12千円加算 ※計画：29.5百万円	各加算額に基づいて徴収した。 H22年度：32.6百万円	○	
	未収金の発生率の抑制及び未収金の回収率の向上	未収金の発生の抑制と回収により、収益を確保する。	未収金の短期回収による発生額の抑制に努める。	各病院ごとに「未収金防止・回収マニュアル」を作成して取組みの強化を図ったが、1年以上入金が滞った焦付未収金の発生額は21年度より9.9%増加した。 [焦付未収金の発生額] 平成20年度 平成21年度 平成22年度 6,674千円 ⇒ 2,140千円 ⇒ 2,352千円	△	
	有料広告の募集	広告看板等の設置、領収書裏面、HP、広報紙「ほすびたる」への広告掲載等の検討	広告掲載を広報誌に続いて、ホームページにも拡大していく。 効果額：1.3百万円	4月からホームページの広告掲載を開始した。 平成22年度広告収入：0.5百万円	○	

説 明		22年度計画	22年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価	
医療機能 向上対策	病診連携・病病連携の強化促進	必要に応じて、患者を診療所から地域の核となる病院に紹介することにより高度な検査や医療を提供し、快方に向かった患者は元の診療所で診療を継続（逆紹介）するしくみの強化	改革プランに示した年度数値目標を達成する。 [数値目標] 紹介率：44.0% 逆紹介率：25.3%	紹介率：42.1% → 未達成 逆紹介率：28.6% → 達成 昨年度より上回ったものの、目標には達成していない。 (H21: 紹介36.9%、逆紹介率24.4%)	△	
	7対1看護の効率的な運営推進	看護職員1名が受け持つ患者を現在の10人から7人とし、手厚い看護を実施する。豊岡病院で実施。	7対1看護の施設基準は平成21年8月に取得しているが、看護師の確保に努め、引き続き体制を維持していく。	更なる看護師の増員が困難な状況であり、厳しい勤務体制が続くため、平成23年1月より10対1看護に変更し、勤務の緩和を図った。 ただし、重症度等にあわせた必要な看護師は配置しており、収入でも特定入院料（救命救急入院料、特定集中治療室管理加算等）の施設基準を取得した。	△	
	クリニカルパスの推進	標準化された治療スケジュールを予め患者へ提示することにより、患者や家族の治療への理解が促進される。	継続してクリニカルパスの開発促進に努める。	平成22年度新規開発パス：病棟用2種、手術用1種 開発済パス数（平成23年3月末） 病棟用84種、外来用21種	○	
	連携パスの推進	施設間のクリニカルパスで、現在国により、脳卒中と大腿鼠経骨骨折のパスが認定されている。	平成21年度に開発した脳卒中連携パスの活用を継続する。	23件の症例において活用した。	○	
経費削減対策	競争原理の働くような契約方法等の見直し	従来の慣例に拘らず、契約方法を見直し、経費の削減を図る。	スケールメリットを最大限に活かす5病院の統一契約について、対象の拡大を検討していく。	看護師ユニフォームの統一を協議・調整し、新年度(23年度)から統一契約に変更し、経費削減を図った。 削減効果：7百万円（効果はH23年度以降）	○	
	診療材料購入の外部委託化の検討・実施	医薬費用の3割を占める診療材料の経費を削減するための方法を検討・実施する。	豊岡病院の物流管理の外部委託化を導入し、診療材料費の1%を削減する。 削減効果額：10百万円	10月から外部委託化し、購入価格の圧縮を図った。 削減効果額：13百万円	○	
	適正な人員配置による委託化・臨職補充	退職者不補充（委託化・臨職化）により、人件費を抑制する。	適正な人員配置による効率化に努める。	直接医療に携わる職種を増員配置し効率化を図った。 作業療法士：精神科に1名配置（豊） 薬剤師：1名増員（豊） ※事務職員の削減。 平成21年度末82名→平成22年度末74名 △8名	○	

説明		22年度計画	22年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価
経費削減対策	業務委託の推進	効率化できる業務の委託を推進する。 豊岡病院の物流管理業務を外部委託化する。	10月から豊岡病院の物流管理の外部委託化した。	○	
	後発薬品の使用率の向上促進	先発薬品から後発薬品に切り換えることにより薬品費の削減を図る。特にDPC（包括診療報酬制度）で効果が大きい。 21年度：5.8%	22年度の後発品購入比率は6.91%で、21年度と比較して1.11%上回った。	○	
	適正な給与体系の検討	国、県、構成市との給与等の比較検討を行い、適正な給与体系とする。 人事院勧告に準拠した改正を実施する。	人事院勧告に準拠した引き下げを実施した。 ・給与改定：0.19%引き下げ ・期末手当支給割合0.15月分及び勤勉手当支給割合0.05月分の引き下げ	○	
経営意識向上対策	BSCの推進と情報共有化	BSC（バランスト・スコア・カード）とは、地域・利用者・仕事・人材などの視点から経営戦略を日常業務へ落とし込むことと特徴とした経営ツール BSC（バランスト・スコア・カード）を推進することにより情報の共有化を図る。	BSC（バランスト・スコア・カード）は未実施である。 ※各病院の看護部では成果指標にBSCの視点をういた目標管理制度を実施している。	×	
	全職員での経営改善への取組（ワンコイン作戦）	収入向上対策・経費削減対策に上げられていること以外で、職員のひとり一人が1日500円分の経営改善へ取組、心構えを持って業務に当たる。 経営改善に対する職員の意識の醸成に努め、経費削減に向けた取組を展開していく。	各病院の会議で経営状況を報告し、所属長を通じて各職員への周知を図り、経営意識の向上に努めているが、引き続き十分な周知と経費削減に向けた取組を展開していく。 具体的な取組策：節電、階段利用の啓蒙、裏面コピー等	△	

説 明		22年度計画	22年度実施状況	病院組合の 自己評価	委員会評価
広 報 及 び 連 携 対 策	ホームページの充実	病院組合の情報戦略の一環として、ホームページの充実を図る。 組合内5病院のホームページの統一的な運用を開始する。	平成22年4月から統一的運用に切り替え、これに伴いホームページの内容をリニューアルして充実を図った。	○	
	「ほすびたる」 「FMジャングル」等による積極的な情報提供等	病院組合の情報戦略の一環として、各種媒体を利用して市民への情報提供を図る。 広報紙ほすびたるやFMジャングルを活用して、情報提供に努める。	ほすびたるは隔月に発行して情報提供に努めた。 FMジャングルは一定の情報提供がされたことから従来の週2回（各15分）の放送からスポット対応に変更したが、22年度の活用はなかった。	△	

×：取組が不十分であり、著しく遅れている。

△：取組が不十分であり、やや遅れている。

○：計画を上回って進んでいる。